**Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ Vol.3**

2019 年 12 月 20 日（金）19:00 開演（18:30 開場）

築地本願寺 2 階 講堂

**<u>プログラム</u>**

**◆W.A. モーツァルト (1756-1791) ： ピアノ四重奏曲 第 2 番変ホ長調 K493**

W. A. Mozart: Piano Quartet No. 2 in E flat major, K493

第 1 楽章 Allegro

第 2 楽章 Larghetto

第 3 楽章 Allegretto

酒井有彩（ピアノ）、城戸かれん（ヴァイオリン）、大山平一郎（ヴィオラ）、水野優也（チェロ）

**◆J. ブラームス (1833-1897) ： ピアノ五重奏曲 ヘ短調作品 34**

J. Brahms: Piano Quintet in F minor, Op. 34

第 1 楽章 Allegro non troppo

第 2 楽章 Andante, un poco Adagio

第 3 楽章 Scherzo. Allegro - Trio

第 4 楽章 Finale. Poco sostenuto — Allegro non troppo

酒井有彩（ピアノ）、千葉清加（ヴァイオリン）、城戸かれん（ヴァイオリン）、
大山平一郎（ヴィオラ）、水野優也（チェロ）

休憩

**お客様とのダイアローグ**

---

［共催］一般社団法人 Music Dialogue

［協力］日本音楽財団（日本財団助成事業）

［認定］公益社団法人 企業メセナ協議会

企業メセナ協議会
助成認定活動

**演奏者プロフィール**

**酒井 有彩**　Arisa Sakai　[ピアノ]
文化庁新進芸術家在外研修員。ベルリン芸術大学を最優秀で卒業、国家演奏家資格取得。マルサラ市国際第 2 位、ジュネーブ国際セミファイナリスト、ブゾーニ国際ファイナルスカラシップ、レオポルド・ベラン国際第 1 位など多数入賞。ポーランド国立放送響、リベイランプレート響、大阪響、関西フィル、日本センチュリー響、兵庫 PAC 管、モディリアーニ弦楽四重奏団などと共演。CHANEL Pygmalion Days Artist、Music Dialogue Artist、地域創造公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。2019 年「ラヴェル ピアノ協奏曲 」で CD デビュー(レコード芸術特選盤) 。www.arisasakai.com

**千葉 清加**　Sayaka Chiba　[ヴァイオリン]
東京藝術大学付属音楽学校を経て、東京芸術大学卒業。東京芸術大学内にて安宅賞受賞。第 72 回日本音楽コンクール第 3 位。第 3 回仙台国際音楽コンクール第 5 位(日本人最高位)。2013 年 CHANEL Pygmalion Days アーティスト。これまでに、ミッシャマイスキー、ユーリー・バシュメット、ヴァレリー・オイストラフ、など国内外の多くの著名な演奏家と共演を重ねており、ラ・フォル・ジュルネ（仏ナント）、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン、セイジ・オザワ松本フェスティバル、別府アルゲリッチ音楽祭などの音楽祭にも出演し好評を博す。現在、全国のオーケストラにゲストコンサートマスターとして客演する他、ソリストや室内楽など幅広く活動している。2014 年より日本フィルハーモニー交響楽団 アシスタント・コンサートマスター。㈱日本ヴァイオリンより名器特別貸与助成を受けている。 https://www.sayakachiba.com

**城戸 かれん**　Karen Kido　[ヴァイオリン]
2010 年日本音楽コンクール第 2 位、2016 年カール・ニールセン国際コンクール第 4 位入賞。宮崎国際音楽祭、東京・春・音楽祭、Chanel Pygmalion Days などに出演するほか、日本フィル、都響、東京シティ・フィル、バーデン=バーデンフィル等と共演。2017 年東京藝術大学を首席で卒業。学内にて福島賞、安宅賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞を受賞。現在、同大学院音楽研究科に在籍し漆原朝子、堀正文、ドンスク・カンの各氏に師事している。ローム・ミュージック・ファンデーション奨学生。

**大山 平一郎**　Heiichiro Ohyama　[ヴィオラ]
英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972 年マールボロ音楽祭にヴィオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシャ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973 年カリフォルニア大学助教授に就任。1979 年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987 年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project（米国サンタ・バーバラ）音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティスティック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。。

**水野 優也** Yuya Mizuno [チェロ]
第 83 回日本音楽コンクールチェロ部門第 3 位。第 13 回東京音楽コンクール弦楽部門第 1 位及び聴衆賞。第 23 回コンセール・マロニエ 21 弦楽器部門第 1 位。ソリストとして、東響、東京フィル、日本フィル、読響などとの共演や国内各地でのソロリサイタルや室内楽にも積極的に取り組む。江副記念リクルート財団、ローム ミュージック ファンデーション各奨学生。桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）を首席卒業。特待生として桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマ・コース修了。現在、ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽大学にてミクローシュ・ペレーニ氏に師事。シャネル・ピグマリオン・デイズ 2020 参加アーティスト。

---

**山岸園子** Sonoko Yamagishi [司会]
聖心女子大学文学部歴史社会学科卒業。グロービス経営大学院（MBA）修了。株式会社リンクアンドモチベーションにて、人材育成や組織風土改革に関する業務に従事。若年層向け教育サービスを提供する新会社立ち上げを担当した。その後株式会社グロービスに入社し、現在は経営大学院／グロービス・マネジメント・スクールにて、マーケティング・学生募集部門の戦略立案やチームマネジメントを担当している。12 歳からヴィオラを始め、現在もアマチュアオーケストラなどで演奏している。

---

**◆Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2019-20 Vol.4 本公演会場変更のお知らせ◆**

---

築地本願寺講堂の改修工事に伴い、2020 年 3 月 6 日（金）19:00 開演のディスカバリー・シリーズ Vol.4 は会場を下記の通り変更いたします。ご了承ください。

【会場】 **加賀町ホール （大江戸線牛込柳町駅から徒歩 5 分）**
https://www.kaga2526.com/contactus
【出演】 アマービレ弦楽四重奏団 （篠原悠那 北田千尋 中恵菜 笹沼樹）
大山平一郎（ヴィオラ）
【曲目】 ブラームス： 弦楽四重奏曲 第 1 番ハ短調 作品 51-1
ブラームス： ピアノ五重奏曲 第 2 番ト長調作品 111
【お申込】 https://bit.ly/34f3GTC

今後のイベントについては Music Dialogue ウェブサイトをご覧ください！
www.music-dialogue.org

**演奏作品について**

**W.A. モーツァルト (1756-1791)： ピアノ四重奏曲　第 2 番変ホ長調 K493 (1786 年作曲)**

モーツァルト 30 歳の年に、出版事業を営む友人ホフマイスターの求めに応じて書かれました。ホフマイスターは 3 曲のピアノ四重奏曲を注文しましたが、実際に彼が出版したのは第 1 番だけでした。この第 2 番は別の会社から出版され、3 曲目は書かれることすらありませんでした。

シリーズ化されなかった理由は、作品の性質が注文主ホフマイスターの意図とずれていたためです。彼が望んだのは市民が家庭で弾いて楽しむ音楽でした。当時、経済的に豊かな市民が登場してピアノを楽しむ人口が増え、家庭でピアノと合奏するための作品が求められていたのです。しかし、モーツァルトが書いた音楽は技術的にも、内容の面でも、その範疇を大きく超えたものでした。なかでも、協奏曲を思わせるほど大活躍するピアノの妙技は本作最大の聴きどころでしょう。

なお、当時のピアノ四重奏はピアノとヴァイオリン 2 本とチェロという編成が一般的でした。第 2 ヴァイオリンをヴィオラに変更したのは、モーツァルトが室内楽では好んでヴィオラを弾いていたからだと考えられています。

第 1 楽章は堂々と力強い主題に始まり、伸びやかな旋律を歌い継いで展開していきます。第 2 楽章はしっとりと繊細な緩徐楽章。第 3 楽章は軽やかに弾む曲想にピアノの妙技が映えます。弦楽器のふくよかな音色との対比も魅力的です。

**J. ブラームス (1833-1897) ：ピアノ五重奏曲　ヘ短調作品 34 (1862～64 年作曲)**

ブラームスの様々なアイデアがところ狭しと盛り込まれた青年期の傑作です。最も顕著な特徴は、ベートーヴェンから学んだ主題と動機の徹底的な展開です。第 1 楽章の主題動機が他の楽章でも応用され、楽曲全体が緊密に関連付けられているのです。また、シューベルトの弦楽五重奏曲やピアノ作品からの影響も指摘されています。

実は、この作品はもともと弦楽五重奏曲として作曲されました。しかしよい評価を得られなかったため 2 台ピアノ版に改作し、次いでピアノ五重奏版に書き直すという複雑な経緯をたどりました。ブラームスがいつも作品を見せ、助言を仰いでいたクララ・シューマンは 2 台ピアノ版についてこう書き送っています。「どの点から見ても素晴らしい立派なあなたの傑作で、各楽章の組み合わせかたも優れています。けれども（中略）この音楽の表現するものは、もっと大きなオーケストラで示されるものだったと思われます」。

ピアノ五重奏版に決着するまでに周囲から寄せられたこうした指摘は、若きブラームスによる意欲的すぎるまでの内容の濃さに由来するのではないかと考えられています。試行錯誤を繰り返しながら、最終的にブラームスはピアノ五重奏というジャンルを代表する作品を世に送り出すことになりました。

第 1 楽章は雄渾な主題が印象的な、均整のとれたソナタ形式による楽章です。第 2 楽章は一転して穏やかな緩徐楽章。第 3 楽章は力動的な主題と鋭く歯切れのよい主題とが鮮やかに対比されたスケルツォ。第 4 楽章はドラマティックな序奏で始まります。続いてハンガリー風の主題が登場し、弦楽器とピアノが緻密に絡み合いながら白熱していきます。

（解説：鉢村 優）

---

ディスカバリー・シリーズの開催にあたり、こちらの団体・個人様よりご支援頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。
日本音楽財団様、福羽泰紀様、小林洋志様、匿名希望 6 名様　（順不同）